

2012 年度 中央大学特定課題研究費 ー研究報告書ー

所属	文学部	身分	教授
氏名	新原 道信		
NAME	Nihara Michinobu		

1. 研究課題

(和文) 大震災以後のコミュニティの再構築を目的とした地域小社会の潜在力の研究

(英文) Research on the Potentiality of 'Small Societies': Toward Reconstructing Regions and Communities after

3.11

2. 研究期間

1 年間

3. 研究の概要（背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600 字程度、英文 50word 程度）

(和文)

本研究は、「3. 11」以降のコミュニティ再構築の方向を探ることを目的として、日本とイタリアにおける地域小社会の潜在力の析出をめざした。背景にあるのは、「大震災」でもっとも大きな被害を受けた津々浦々の地域小社会、そしてもっとも深い喪失に直面している地域小社会の持続的発展を担ってきたひとびとの存在である。

地域小社会に暮らしてきたひとびとの潜在力を析出するため、日本においては、被災地からの避難者受け入れを行った立川・大山団地、イタリアにおいては、原子力発電所の誘致をめぐる住民投票が行われたサルデーニャの地域小社会において、フィールドワークを行った。

その結果、“惑星社会の諸問題を引き受け／応答する(responding for/to the multiple problems in the planetary society)”、“生存の場としての地域社会の探究／探求(Exploring Regions and Communities for Sustainable Ways of Being)”という観点が重要な調査研究の枠組みとなることが明らかになった。

今後は、「3. 11」以降の日本の地域社会・コミュニティが直面している問題を“惑星社会の諸問題”としてとらえ、そのうえで、“コミュニティを基盤とする参加型アクション・リサーチ(CBPR)”と“療法的でリフレクシヴな調査研究(TFR)”を組み合わせた“探究／探求型社会調査(CBPR/TFR 調査)”の実践を課題とする。

(英文)

Exploring Regions and Communities for Sustainable Ways of Being is evolved from the idea of constructing, against the tide of globalization, a “codevelopment” system for the 21st century planetary society.

I conducted research and interviews in certain areas, regarding the composite/complex/hybrid identities of the community residents, while employing such key concepts as “Potentialities.”

4. おもな発表論文等（予定を含む）

<p>【学術論文】（著者名、論文題目、誌名、査読の有無、巻号、頁、発行年月）</p> <p>新原道信「“惑星社会の諸問題”に応答するための“探究／探求型社会調査”——『3. 11以降』の持続可能な社会の構築に向けて」『中央大学文学部紀要』、査読無、通巻248号、47-75頁、2013年3月。</p> <p>新原道信「“境界領域”のフィールドワーク(3)——生存の場としての地域社会にむけて」『中央大学社会科学研究所年報』、査読無、第17号、2013年7月刊行予定。</p>
<p>【学会発表】（発表者名、発表題目、学会名、開催地、開催年月）</p> <p>Michinobu Niihara, "Il disastro nucleare di FUKUSHIMA. Scelte energetiche, società civile, qualità della vita", nel <i>Quarto seminario FOIST su Esperienze internazionali nell'università</i>, Associazione Italiana di Sociologia, Università degli Studi di Sassari, Sassari, agosto 2013.</p>
<p>【図書】（著者名、出版社名、書名、刊行年）</p>
<p>【その他】（知的財産権、ニュースリリース等）</p>